



小委員会設置の背景—体育系若手研究者をめぐる問題意識—

- ◆大学院重点化政策に伴い、体育系大学院生が増加。しかし未だ、他分野に比べて学部生に対する大学院生の比率は著しく低い。
- ◆個別専門学会等の影響により、本学会に所属しない若手研究者の増加傾向→学会組織の高齢化対応と本学会独自の固有価値の明確化が必要
- ◆若手研究者の劣悪な生活・研究環境→→→研究者志向学生の相対的減少（大学院生に占める研究者志望者の割合）
- ◆大学院修了者の専門性を発揮できる受け皿（キャリア・パス）の不足、専門職制度の未整備

小委員会の検討課題—スポーツ立国をリードし支える専門家の育成・支援に向けて—

1. 若手研究者の生活・研究・就職・職場環境をめぐる諸問題の把握とその改善方策の検討
2. 体育系大学院の拡充・強化策（大学院教育の改革と新大学院の構想化）及び学校における体育・スポーツ科学教育のあり方の検討
3. 体育系大学院生のキャリア・パスの総合的なデザインとスポーツ専門職制度の検討
4. 日本体育学会独自の若手研究者育成方策の検討
※1. の調査結果に基づき、3. 4. を中心に検討

若手会員(40歳未満)に対する質問紙調査の実施

- ◆目的：生活・研究・就職・職場環境の実態と学会の諸事業に対する参加状況と意識の把握
- ◆対象：満40歳未満の会員1,500名
(参考：40歳未満会員数2,035名)
- ◆期間：平成26年11月1日～12月31日
- ◆有効回収数：437部（回収率29.1%）

主要な調査結果

1. 不安定な立場と厳しい経済生活、そして現在の職場への不満
年収400万円未満49%、本人の収入のみ91%、任期付研究者44%、職場環境に不満40%
2. 研究職ポストの少なさ、研究職にこだわらない将来展望
研究職ポストが少ない74%、研究職に就くための競争が激化79%、研究職にこだわらない大学院生58%
3. 学会活動に関わる経済的負担の重さ
4. 研究環境・資源の劣悪さ
研究機関職員の6割前後が週当10時間未満の研究時間、3～4割が私費負担、国内・海外研究者との交流機会の不足、研究環境に不満4割
5. 学会に対する意見・要望
体育学会の魅力：多様な専門領域の研究者との交流、体育学全体の研究動向の理解、会員サービスへの満足度「どちらでもない」68%
高額な学会費、地域制度の意義への疑問、若手会員の学会運営への参加（若手の会の発足、若手主体の研究会開催、若手の意見反映等）
6. 体育系女性研究者の特徴と悩み
研究職へのこだわりの低さ、女性のライフイベントと研究職キャリアの両立困難性、女性研究者キャリアのモデルの不在、体育学分野におけるハラスメント、不安定な生活による研究活動の制約

提言

1. 体育系大学院生の職域開拓
 - (1) アカデミックポストの拡充方策
 - ①長期の任期制導入、教授ポストの厳選と助教ポストの拡充
 - ②大学以外の研究機関の新設・増設による研究職ポストの確保
 - (2) 研究職以外のスポーツ専門職制度の確立
全国的・国際的スポーツ組織における戦略プランナー、中央省庁や地方スポーツ行政における「大学院枠」の導入、ナショナルレベルの指導者、子どものプレイ・スポーツ専門職等
2. 日本体育学会における若手研究者育成・支援策
 - (1) 学会活動への経済的負担の軽減
 - (2) 若手研究者の学会運営への参画、若手会員の交流促進
 - ①学会大会等による若手主体のプログラム
 - ②若手会員間のネットワーク強化、異分野間共同研究の促進
 - ③若手研究者の組織化（若手の会、若手会員の代表理事等）
 - (3) 経済的支援策（研究助成制度）の充実
 - (4) 学会発表等、研究成果の公表機会の工夫改善
課題志向別発表セッションの設定（専門領域横断型）、機関誌における特定課題に焦点を当てたCall for papersの導入等